

# 廃ガラスカレットの有効利用に向けたモルタルの特性について

山口大学大学院 学生会員 ○澤田 敬文  
 山口大学大学院 学生会員 田邊 文章  
 山口大学大学院 正会員 高海 克彦

## 1. はじめに

近年、わが国は、大量生産・大量消費によりめざましい発展を遂げてきた。しかし、その影響でガラス瓶やプラスチックといった廃棄物は増大の一步をたどってきた。これがもたらす環境への影響は、大きな社会問題となっている。この問題を解決するために 1997 年容器包装リサイクル法により、リサイクルの促進化が行われた。現在、ガラス瓶やプラスチックの再利用、再資源化は比較的行われている。

そこで、本研究では、再利用の方法のひとつとして、廃ガラス (Waste Glass : 以下 WG とする) を細骨材として用いたリサイクルコンクリートおよび補強用マイクロ PET 短繊維 (以下 PET とする) を用いたリサイクルコンクリートと目途とするモルタルの強度および挙動について述べていく。

## 2. 実験方法

### (1) 使用材料

細骨材として、0~1.2mm、1.2~2.5mm の粒径に分別された WG、海砂を用いた。セメントは普通ポルトランドセメントを用いた。混和材として PET を用いた。

### (2) モルタル試験

試験用供試体はモルタルバー(4×4×16cm)とし、モルタルの配合は表-1、表-2 に示す。WG の置換方法は、内割りで容積置換として、WG の粒径と同じ粒径を砂からふるい分けて置換した。また WG は、0~1.2mm では 0、3、7、10、20、30、40、50%まで、1.2~2.5mm も同様に置換した。ただし、1.2mm~2.5mm は 13%までしか置換できなかった。これは 1.2mm~2.5mm 対応する砂の粒径が 13%までしかふるいわけできなかったためである。PET は 0、0.5、1.0%で細骨材の容積に対して WG と同様に内割りで容積置換を行った。曲げ・圧縮試験は、JIS R 520I に準じて行った。配合条件は、表-1、表-2 である。

### (3) 角柱モルタルの曲げ強度実験

10×10×40cm の角柱供試体を用いて、JIS R 1106 に従い曲げ強度試験を行った。載荷方法は、3 等分点載荷方法で行った。配合条件は、表-1、表-2 である。

### (4) 膨張率の測定

真鍮管を用いてガラスの膨張率の簡易測定を行った。真

表-1 廃ガラスモルタルの配合

W/C(%)	WGの置換率(%)	C(g)	W(g)	S(g)	WG(g)
50	0	448	224	1345	0
	3	448	224	1305	39
	7	448	224	1251	91
	10	448	224	1210	129

表-2 T-AC(0.5%)を混入したモルタルの配合

WGの置換率(%)	C(kg/m <sup>3</sup> )	W(kg/m <sup>3</sup> )	S(kg/m <sup>3</sup> )	WG(kg/m <sup>3</sup> )	PET(kg/m <sup>3</sup> )
0	448	224	1331	0	6.75
3	448	224	1291	39	6.75
7	448	224	1237	91	6.75
10	448	224	1197	129	6.75

表-3 ガラスの密度・吸水率

試料	表乾密度(g/cm <sup>3</sup> )	吸水率(%)	絶乾密度(g/cm <sup>3</sup> )
0~1.2mm	2.53	0.07	2.53
1.2~2.5mm	2.53	0.05	2.53

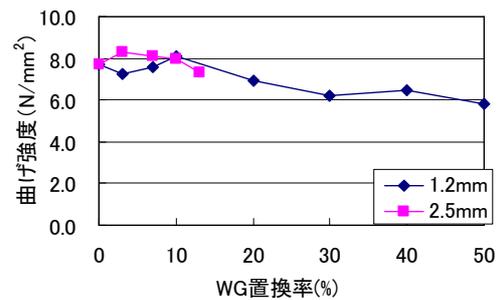


図-1 28日養生曲げ強度 (WGのみ)

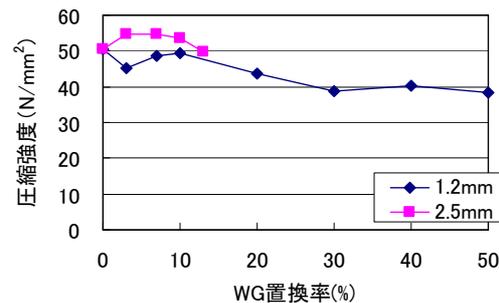


図-2 28日養生圧縮強度 (WGのみ)

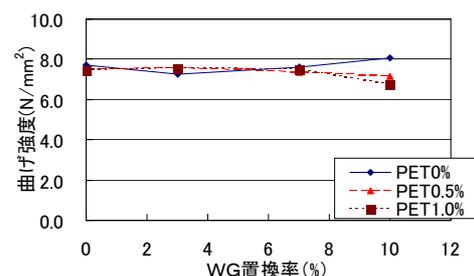


図-3 28日養生曲げ強度 (1.2mm W.G)

鑄管をモルタルバーの両端の 2×2 cmの位置に挿入してそのスパンの変化を測定した。配合条件は、表-1 がある。28 日まで水中養生を行い、28 日以降は標準養生を行った。

### 3. 実験結果・考察

#### (1) 密度試験

密度試験は、JIS A 1134 に準じて行った。WG の密度は、表-3 に示す。1.2mm、2.5mm とともに 2.53(g/cm<sup>3</sup>) になった。吸水率は 0.07%、0.05% となり、ほとんど吸水しないことがわかる。一般に細骨材の密度は、2.50~2.65(g/cm<sup>3</sup>)、吸水率は 1~3% である。WG1.2mm、2.5mm は、ともに細骨材として用いることができると考えられる。

#### (2) 曲げ・圧縮試験

WG のみ混入時の曲げ・圧縮試験結果を図-1、図-2 に示す。WG の置換率を上げていくと、曲げ・圧縮ともに強度が低下している。WG は砂と比べて表面が滑らかなので、付着が弱くなると考えられ、曲げ強度が低下したのだと考えられる。また砂と WG の強度では、砂の強度が高いため圧縮強度が低下したのだと考えられる。

#### (3) PET 混入時の曲げ・圧縮試験

短繊維を混入した粒径ごとの曲げ・圧縮試験結果を図-3、図-4、図-5、図-6 に示す。1.2mm、2.5mm の曲げ強度において、PET の置換率を増加してもほとんど影響していない。

圧縮強度においても、1.2mm、2.5mm も置換率にはほとんど影響していない。

#### (3) 曲げ強度

角柱の曲げ強度試験結果は図-7 に示す。角柱モルタルの曲げ強度は、PET の置換率を増加してもほとんど影響していない。

#### (4) 膨張率の測定

膨張率の測定結果を図-8 に示す。WG1.2mm は 42 日から膨張が起こっている。しかし WG2.5mm は収縮しているという結果になった。

### 4. 結論

- (1) 3~10%の少ない置換率に対しては 0%と同等ないしそれ以上の強度を示しているが、WG の置換率を増加していくと強度が低下する。
- (2) PET を混入すると曲げ・圧縮強度ともにほとんど影響していない。
- (3) 膨張率について WG2.5mm は、モルタルを型枠に充填する段階で WG が底に溜まってしまい、真鑄管が傾いた影響ではないかと考えられる。

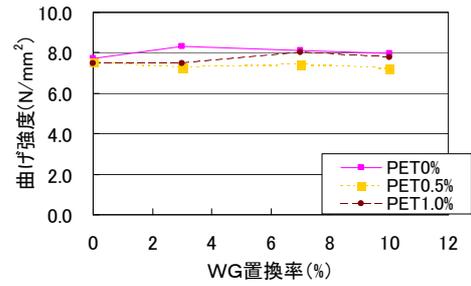


図-4 28日養生曲げ強度 (2.5mm WG)

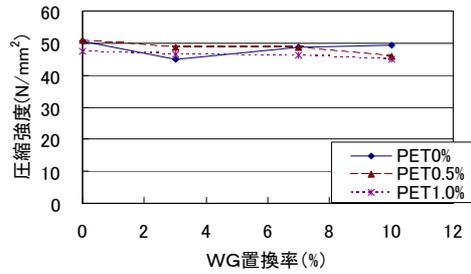


図-5 28日養生圧縮強度 (1.2mm WG)

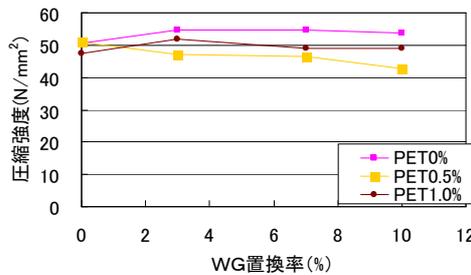


図-6 28日圧縮強度 (2.5mm WG)

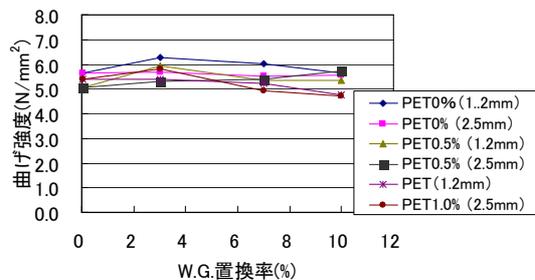


図-7 角柱モルタルの曲げ強度

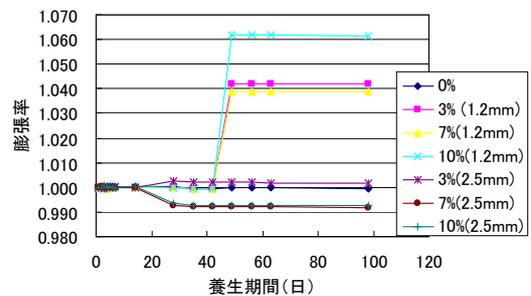


図-8 膨張率測定結果